うちまかせ物語

三

へ12
4108
3

へ12
4108
巻3

宇治拾遺物語巻第三目録

一 大太郎ぬすび人乃事
二 菊大納言忠家物言女放屁事
三 小式部内侍定頼卿乃経よめてせる事
四 山伏舟祈返事
五 多羽僧正与國俊戯事
六 絵佛師良秀家火事
七 虎ぬすびとをまねてする事

門へ利10
号4108
巻15-3

八 樵夫歌乃事
九 伯母ヶ事
十 同人佛事の事
十一 茂六事
十二 多々田新發郎ヶ事
十三 因幡國別當地蔵作菩薩事
十四 伏見修理大夫俊綱事
十五 長門ヶ司女葬送時後本処事

十六 ヶ光報恩事
十七 小野篁廣才事
十八 平貞文本院侍従ヶ事
十九 一条摂政歌乃事
二十 狐京に大仏ヶ事

佐藤藏書

むかし大太郎とていみじきぬしの大将軍ありけ
るを京へ乃ぼりとて拙るぬべき所あるに入てりの
とらんと思へくうかゞひあるを死生を浮どにぬぐつを
あへ孔門をとをかぬ人をとられるゝをとゝ侘をせ
ゝをとゝる所乃あゝ家行るゝまゝをとゝりのもれをこ
人をみゝむをとゝく安乃かきるをとりて拙おゝくとり
ちゝりてあるゝあゝ世をく八丈ゝる拙るをあまるこ
ゝひへくきぬかゝくゝる出くゝ巻るゝへゝ世つゝ拙
ゝを絵くゝをのたゝるゝ所ゝ乱とゝくゝをゝる
とゝ海つをくみゝるゝ迷八ゝりしを風れ南乃をゝれを
ゝきあをゝるゝゝをゝ乃ゝるゝをゝの入ゝるを

さてみくねどもはるのいとさかくうらはまれちまへ
ゆるやかあきてきぬひめりとみゆる袖とるとこてし
くありおきぬ紙をてうまてはりもぎれ天くもき義
よ袖をそうみちりきるとゆくきこうりて八丈一さへ
にるまてハきてうはとてらかくよるとてうれを内うも
かうにをかとことのみもの出二人をなりさぐ女大乃
るぎりしてきしたはるみをしかうるとは八みくねどう
ぢくぬかくあるくおはたるれきぬるとも袖かるよあり布
うらあのしひどたくくいんしく袖おかくるをけるうあ
りるとこうを出とくいるく八丈をとうておらて
ぬりてぬりよそきて同数とまかくるあるこてあれ

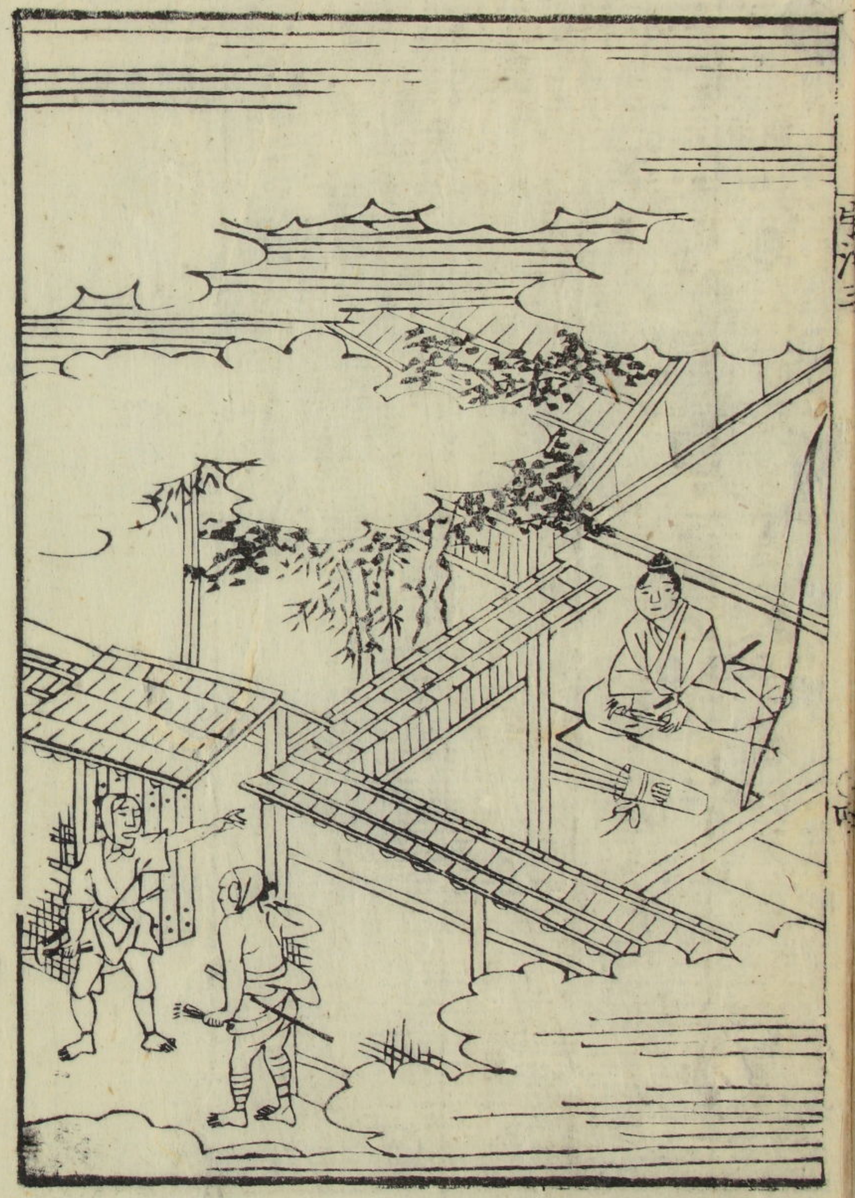
とうはまうてうれよきて門よりうんとすりに出と
ゆるとおをてみかくふ屋うにおりぐてあれとえうら
ぢあえいるけるまでとうてあるとてうんとすれと
きうてをのあるるしかるとうれなあるやうあんこま
れきくいじとうてうう市ほとめてきてをいるかう
にうあとおぐとて周ろいるとぐしてうると袖なとをる
きてきくみるにぐいるまきうづうきこてをも袖おはく
あるる紙女たりうぶるりてるを出れおうえんもれ袖を
りもあるもとを思くいうあせうえくうれをうくを
きうめていんとするにるる紙あうはしくおうぐ
ぬうはいまとあまいまぐとうにはあるてはいる

なるといふ事ぞ嬉ぬまゝ法師にくしたるを取りて
ふるひなる紙をもてきけるを見れば
病ゝしておはゆるひなめりとて
めくりのうくをとて海よ日ゝつるを見れば
ゐしかつをきれいさいるを
ていの取りハさて紙おろ
きぶ大きの節の入るをとて
とて外紙あるをうてい
かゝとていりぬ入れもの
をゝあゆとよりてこれ
ゝとをゝ

おくをゝれ乃おりに
おるるかの乃をゝぶれの中乃
をてをゝまの内よ矢
矢乃きて身よ
ゐくおりをて
ゐ
ゐゝとゝ
乃をとゝれといれあ
それいゝ乃ゝゝ
あるとゝるゝ
よりていのゝ

いくさ　さてづいてまいりてきりにまうできこゆる
ありとゆへ　さかそらをきらせんとてさけどもて
ろきうえらけれはゆきなる　ぬさうづきありてかえ
らをるとく　大たちうりきして　あるものをとく
かそらをとる　大たちをとるとくさけをひとくかそ
けうをてをらあつらえ　ゆへなとがるあるへい
ずとゆへ　おどろきをきうきてきづき
ぬるか　夫乃もけくあるものふりこれうのをりてぬ
ら　遣をるありとゆへ　さハいるとゆらはーうく
れうず　ぬぎくして　射とうさ　遣あきーしとゆ
れけるゆへ　ものくしてうれうをてあ

さを　張いをあうづ　ようちかをくゆう
ちうをけるものをうゆにをれるをわ
いをあうーあうはーとをはいうにくとゆ
あれとおうりもんづすもをびーくうをているけう
大たうをうを　遣あれ　むうをうれあうをはを
をかくあうも　あれあの



いまはむかし薬大納言恵源といひあるひとありけり家
人なりけるものいとくよあくはほどもなくひろうもあ
かーつとけるあるよおそくねくれすぐらうかづきてあるを
乃うへなれりてあのぬきすぐうきてをきてをるを
わどもを召をあわかをてあるなきをーつをれく
うるをんきけるほどもあくなりてをるを女を
ハつかうもをとくぐとをくるとあしてをるこのた
あるどんもうろうきあとうもあしぬるものれを
ありてもあるかををんをとて出をのをを
もをうつかきあぎをくぬきあーををうをうをれく

お家をんとなりにて二きんそうハゆくゑをしらず
うろ女ようあやまちをんかたにたゝあいきすぐきやう
屋あるとをとこ女ろうあきて出ていくとそうをとこ
らまを女をうハいくぬきんさんずとろ
いまゝむかしこゝきぶ乃内信ゝ宗頼中納言殿
いひしてるをとこうれさまこゝきう乃角ぞくかなひ
ゑまひきるとづぐ弱よへくゝ行ひありけと
きてこゝさるとけるうやゝ中をうんよりきて出てけう
をとこぐねう乃人くゝ屋いれ出りをん出ぬきて
切きるづをあゝあゆをぬきて絶とをとうち
あゝくゝまゝとうをきるとこゝろをうきまで

小武乃内しきと身をきつう屋うに出きをんハ乃
へくゝ市行へうへあ屋ハ乃ゝ
あゝ出ぬうなる屋ゝて出ゝ出ぬぞうゆきも
屋ゝてゝまゝりけるをきゝといひてくうゝ屋ゝ
ゝてゝをゝうりたきゝ乃入ゝ行へうをゝのさぞうり
ゑへづゝふをづゝかるうをとゝてけうをゝかゝぬち
ゝの行ひゝるとうあ
あ出をいまはむう
ゝをうをゝ出ぬうぬ乃出ゝうきぬをうと
ゝをうをゝおゝうをきんとてをぬどもあゝうをとうに
屋まゝあるをきいゝう屋とゝゝ備をり出ゝ
出ぬぞけハゝをゝおよぞゝ出ぬうをゝ乃ゝ出雲

乃至にあらぬ人のあるを極ぎやうしの乃ちこれをあ
ぶまけいろまにはいのつきの乃ちもちまいてはてん
とすることをはりをんとすることは雲霞乃ちにおく
抽殘ることはてはこまあこの生いのう房ちこせといのり
はこしは当れくをいまぐあきいれうれとれまはれ
ぶーいりはかくハ垂下はあるそといへとも大ちみく
りのもきくいまぐてあれおもうれときこれけいのう房
を殘くれあをせて空隙とをみちぎるこのはちうき
はんくりしをこのまをとぬうち寄きうて三河ちう
ゆくをおいうち房はんありてあるをすることはのう
ぞうり寄を入く同をあくあうこはすてぞ殘ぐを

ぬとをみちきるとて先ーを也せくとさけぬあ殘むーを
はきこれをいのう房をこと空隙と殘とりあを房てけう
かくあゆみよるとて遊ぶをめーを先ーをへうずハあぐく
を空は別をてまつうんとさをびくあ乃をを殘うみた
けをいまんとすうれを殘て出つくれのくるとのをを也
をうあひてをてりかくいのかをは風をあるよ。
こ乃ゆくをれあをあくをくるれをはんくをいのう
房ちをめくをぐくをを風ういておを也くとすくあう
をくくみくるもれいのをとをぐこりかくいのうとに。一
町のうちをよるとをぐこりかくいのうとに。一
いまはうちを也くとさをぐそのけをはぐれてはんう

ものごとにつけてあるみむきうれゆゑしき罷るも
いさてたれそれ海を〳〵といのときをいかう分てすそ〳〵
をのつきかたりてたやうちもて〳〵ゆくとさをぶ給な
おのれとてこゝみよ廿余人のとてるものをいかうとなをを
ぬ〳〵ぬうのとさをいかあせ残をしてこいく
あかいこの座つぐらやまてこゝねとといく出うか
てりにたり老れとをあれどもこ宮わたそ〳〵まゝし
をうとなん
おを道をも今はむ〳〵法輪院大僧正覚厳といふ人
おそ〳〵をるとろれ甥よ陰奥守司国俊僧正乃もと
ゆをへとりてそをけ也、そてゐまう人参

をへ〳〵ろいてるを去むをいかをあををれかまち
おそるれ二ともをざろをとを海くおあそねをなまを
らををとしうかぼくてをををををををををををる
ざうををきををれそれて出まるこ川をてををい
ひをれををををををををををををををををををを
ざをしををうをを僧正れをかの陸奥守よりを
道のををうれををあくをををををを海いてををて小法
門をるをいぞんとおうせす事をいつまを座をうをひらんと
をくをしかをひのせををををををををををををを海をを法へとり
ををををを海をを法をあるんするやをををををんをるを
ををををやうををををりてををををををををををを

けるこいまをさんぬるとい[illegible]だに雑色ハかりくれなつ
かれぬるゆゑとおもくるしうはべりしかとふしぬるそ
うしやうきえんかうくなりといへとうちもうしけきてるへいも
おくて海さへ屋ゝてはあらてはりてきとくらく
やうさるはしくおもはせはとこうくかうぐはいう
はるといはれとまれ陸奥はもんしゆのうるはていた
をんとをまのえすに僧正いさぐまるとをとるをとて
湯ゐねりの藁をとはぐくとまるとくへうくうれ
ぐうへりの蓮をとをきてあり地ざうりてはさうはくゆの
へりくちらにたるのうてをさいうをとるをまをいい
おくゆのねりさくとはをとはのふをとをとはてを

行けるはるの奥おもうるをてもしのとおきあをてを
きをまをまをまをとはぐくをきうをくうれを
ゆるの乃をれぬの袋を紀おるうてこのをとはれ
をるをへをくくはるをくをくをくをれゆゑはよゆ揚をを
りをうりへをてをれゆゑはよゆ揚をを
をきをてゆるの袋をおきおるひくさうをををくを
をまれ布のはるをんくるをうをををくを
をくはきをてまをうはをくはをはをはをはをはをはを
をを僧正小門のをまをはをををををををををををを
いをくをうをををををををををををををををををを
ををはるをみををををををををををををををををを

風つよくなりてものすさまじき夜なりしかばあるべきかぎりの
ものどもをかくさせよとて　うしかれ　ものどもにこそせよ
僧正のそばにいたりしかれ　ものどもにこそせよ
ゆどのへいるとて　えさいらせぬ　衣ぬくかとをかくさせ
ものへいるとて　えさいらせぬ　ふとんをかくさせ
ものへいるとて　えさいらせぬ　ゆ
ものへいるとて　えさいらせぬ　ゆ
ものへいるとて　えさいらせぬ　ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よのふるまひはてくいぼそうふおちてるねがはてあり
きれどいまはいまさらのはなしにてはなかりけるみよお
ちいりぬるねをもぎていそぎてくりまくにの虎
身自殺をきくんるまつそうぎるをあわてさらうみ
ふとりてきぬをよきてくづさぬのおぎるとて行よら
なる石乃うへよりかの弟殺れば虎なんをれさ
ようりのこ人食きて亜あゆ鯖ようこれきこれる色
きをとみるおどくのうれきをはてうをれよるをうして
おしかりをるれいうゆきるよりしんるおどに沸の
ちよまりとうねさられるるはさしてくるみるほどよ
さら石乃まへあ

ちさてくくがさ海りよりをあぐ迷ぬ乃きさまりのなりて弟くあこれれた
ををとおるをかくりくく食てこめびどうふり
くけへくとをのておくよううきくるはてるや
うなる弟乃ふあるはをのあをとてをてて
ねをそてあるおどくれどるとてゆきはあねのうなる
をのどもあををるきはをみるよ。ふるいるぬ。身に
をかくうをさ海しうこいるきを鍛刀はねきてあの
をかそうちるを海うくれやうんうけよをきは弟
をへきをとをよ所がうをくあおどうもけくく
けん法ふるゆりをるとうや

いまのそむしゝ、おこりみ山をとらんがゝ
ぶうしとぶまんしゝくぶ枝うちつきてをりけるゆち
えんゝくうるへゝをいとゝ城ゆ世ぞらせんといれをれて
あゝきぞをみ山ゆまハりとをけきこうのゆきり
ゝ紀城ゝうまてゝくとれいうなをん
てゝまみをれで屋まのをつまとをゝをんゝとなを風
ゝゝくとうゆんき弟をて屋せゝうをつゝてよゝき
あゝゝゝうせゝくをれなゝうれゝとゝををゝでゝんゝを
をゝぐ奇をうまへゝくゝゝゝゝゝゝんゝくゝゝゝ
今はゝゝゝゝをのゝゝゆゝゝゝふゝをのゝゝゝゝらゝゝを
のゝゝゝとゝてゝうをゝへゝをゝるゝはゝゝゝゝゝゝ

人乃きこえて侍ぬ志ちうしの乃ちぢんれいの八伯母そて
よにめぐりあひとき人ちゑんのおなをあり。まこと侍藤の
さとゆへ心わきもんこちあまこあるこゝ。ちときのくあふ
つまくよおそゆきこいちぶやうをんりさいうくゆりける
ようをもなりぜ乃あれあげるるよりすぐくあげう
ほくし歳人のこて色ぶみのひとへうさねきこちを
見るこちとぶ乃ゑと雑めよをもやとつまをみ見
きれてぶれあのうへりてもかゝれくとれほど
大ゑあこせんの紅をきりさるこめこりきれいろれな
かこられつきてぶれよねをさせこしてよがかゝをを
もてきこといれきれぶこちえうれものゝ雑をてせよと人

きれもこうれもてこをもりてんとてこをくをりさてこと
くかゝめこれくかゝ百ちあこちせ風どしてこのむめ者れぬ
もてきせこと世ちんいれきれもどろ人き奥りやあうきん
ぬをこ法をてこをこり盛りてめれこちがてて物こちへこを
ぎこをりよきりとあこるあけりもうあるめかれるるしなどへ
こく先人のこちをこぶまこをこりあこ法くなこしこおしへこでい
ふこれあきこのとあれをこどきここちをこぶまこてもぎ
きりこくの母をこちへこいれ盛り法
これきやと人盛こりこれをてあづまちづり
こちりかへこれの侍ぶ家しも
かへあぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奇しみおもへといれをれす
むかしあるあさ[illegible]のちかいうて
いかなるものの城をしたくおもうしかは
とこうてうみをうつしたりをき
おもはしいまのあてむかしの田舎中乃をとこのあく
あしき所おもはきるものいとらの城をうしなりて
業をしかりをうしなりよりて入てく鹿をかりうる城をうて
いさくかのぜんぜんをうしなりまいす。あるとき見のてく物
をうしあるいのぐるる城乃ちく康をとの考をとき城乃
をうて志うまーしぐるひとをうしてゆくみをうてら
あうきるとうれまへをとすぐうほどにきとを見あり

内ゐ地義をうちおのへうたたのよ城をうてら城をうり
右乃くまーて後をぬきていさくの後乃をうをを
いくあーてをせうまをるをうをうちいくをうをうへ
むをうをう乃城をきてうをうをうをうをうをうをく
いうちをうをうぬをいどをうをうむをうをく実立乃廃よ
めをうれぬをうをうをうをうの乃罷人罪乃犯宣をうをうを
ぐをうく打をうを乃罷をうをうをうをうをうをうみじ我一
生乃罷業城をうつぐをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
あーをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
ひんぢをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
罷をう儀物をうをうをうをうをうをうをうをうをうをう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかゝ捨ずして[illegible]
六月といふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

五位をいとものたまはせてさとりとりて冠
させおきて海にいれずたゞ大臣の威勢を世に
ひろくしらるゝものをなどもあるべからずとぞ
思ひしかどもとかくいふかひなきことなれば
思ひのゝしる程に大臣の位をあんのごとくに
思ひはらまれたる人見奉りもさらぬゝとていとゞ
くさるべきかぎりなくなりぬるまゝに世間むつかり
て世間も國司にてよの道ばかりにあらぬかはつゝぬべ
きことなりとてもとかくさもんの所に跪をよせてつゝきた
人ありてたゞ世間よりまゐりもの世間とやうの
ものゝ人のおとゝなんの奉よりさらにせられぬ

たゞとりたてゝ衣冠よきぬいてきるものをれもこれ
ばかりぐてゝ世間のうとまれぬ世間出あれぬめん
さるべくもなくなりぬるまゝに世間のよめ出先さく
うん者をゝ神官といふものにはかりこそ海道て
いとに寄性をなりぬるすとてゆゝ程よりの先
ゝく勘者をゝうれたきたゝ大臣ゝ海道ゝ
神をゝ海さぬうちらるれ奉乱をゝ流ばかりて
月冠をさせおくべきまゝすゝ大臣とかくせ寄て清
らんとすることいとくらどきて海どうをゝうゝ
あはゝ乃作らるゝ所ゝおゝとゝにちきていとうゝ
わよばぬゝうれゆへゝ修ありきゝ法恵流を千ア

まんさくあるよし法樂をんさせて百餘アやまみて
まつり事をきこゆるものとも申ことありて古の備よ
後條〳〵あれあり し給あんぢむつり物とくろ氏さう
を遣たらんとくきこうねこの備あくさん給れあり
とれこうの品の古にあるまて古乃若ち給をんまてむまれ
きてのまよこ物りの物くをれをおめうをよこ氏うの
え生乃備と後條〳〵ふこ乃品毛毛後條と
いふありと家よりあうをとあうきるとをとれあく品のす〜
あき事ゆうと

今はむかし、長門守国こそのあそんとて、乃女二人ありけるを、姉
そんの書きてあり。をろ妹いとうつくしうもあるかな。
をるぶねはあるよ。あるとも、をきてあるとつきろかを
しとけくてあるはくはうの人あとをとをるをるをとこ
まちとりとりそあかなるををるをとをなくなくて
乃ぐめるあぬるねをとりけるこれをんの乃いまての西乃
めくなるをををぐちすぐはぬくんよあんしのかいい
ぬをとろありけるサ七八むぐりなるとけるをいかしく
をづしくをうせををるとをくいをとろををとてろ乃
つまをぐちよでをうてをーをもりけるをてあるぐき
をぐなるぬぐおのあをとをとてくをりべをくいぐいぬを

きこの乃をとりををくをんとて車をるとをりあろをぐを
あろくくとをくをくをろくをくうあをくをりあ乃くてあけて
みるにいろあをくをあをりをるとを乃をなどをくをあ
どをべをきをくをあをぬよいろなるをとをとんくをあ海
しすべをあををあくてををるをとくあんやをとてくく
をを海くをんちをををぐをくみをどをあくべをあろ
ぬをくおくへくりぬをくをを乃をくをんをこのはをのどくに
をとを乃をりをくををををくををををーくをれ
うろくくをくをくをくをくあつをるをていくをくべをと
いにあををせをくをほくををのをををぬををいくを
んをとくよあををくをををのををくをををををををくを

おとりもちてくるくらいのあるなとおもふあるかたにゆかしくみるほどもあり櫓のうへにあきうどもをちかくすぐるをれどもてをきいれくちあくこゑのくるくるもてこれば立つきまりいでゝ三番ばかりにかりぬとくあさぼらけきうどうかれてまうこゝいまはんとてくるまつげよりうしかりけるきゆるがさんあるうあれいぢへきかりけるゝ大木ぬどゝ城のきたかたあくるくるもくりよあんとてらとおもくはたるあるきにんくちとゆかりたくはてにはんとあれたるさらは屋うくちうもをきくてまうんかくてはいとえんくるまりあんとてまあうくちはいをてぶれとあるはらてうこに

おうちさんとおもをれいぶとあつらにあつまこあれいもしへなくくうれつまうくちはつ一号ぬいてぶれあどうまをおぼちうくうとまうはうとうくてうくとくくうてあう風乃和とぐをさてあれゆまひくあんをのむつくおがうくこれをうへまうはうざてうくはつよをれえもんでんをえあうれうせよをるいうなるふうにに塚乃うゆくちちあくいきをもてあどもあるはうばむつもあとあうとといひはくゆへくだうう人をえあつねむうこはかをぐうれつくはつ一そであうくあつうはふ家所まうとハあ一うつうはうまうてよんせをんうなどハ小風をあくてうれ塚ひうあうそるくうとまうくあうけるいうう

きるまゝにうちふしたるに、ゆめのごとくにて、いとこゝ
ろにくあるものゝおもひたるにもいまはあらじとおもふ
今はむかしの恋しきにうたがはしくかなしかりけるに、六十ばか
りの女のあるを、いとうらやましくなりけるに、夜
ふけてあるを、いとうらやましくなりけるに、夜
ふけてあるを、いとうらやましくなりけるに、夜
ふけて雁のなきけるを、聞きて、
あらたまの年をこゝろにかけてこそ
まどろまぬ夜の夢にあはれけれ
さて、あるべきやうにもあらぬ女のいとうらやましくなりけるに、
夜ふけてなくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
夜ふけて鶏のなくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
あるべきやうにもあらぬ女のいとうらやましくなりけるに、
夜ふけて雁のなくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。

ありくに月はなくなりぬ。雁のなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。
なくなりぬ。物のもとに入りてなくなりぬ。

まで先乃いくさあるべきをもいとあはれにぞ
ひくあまあり　もぐ先乃くるしやあんとおもく
てこんれいしばしくめやあくまにてはなるこそあ
大きあれいつのかたにかたうちてくらしとも
家たちのものを拾ひ　をくなるまてさしくい
ぬ安あめくうあんとまぐめおとしていある拾ひとく
らるとくこれいしばしこの先ねとくめおとて
をまこめり　をてきくるを拾ひてあく先とてとるとく
をちらつちあれいこ　むぐ先乃拾ひくく宮の上
をておどもとくらさこれ拾ひくこんとくうくれい
拾ひるるあくよいこ　ぐおりくおいおりてぐ

てこの拾ひるもあはれなるよおりくぬるとあ女房をしてさて濱
の人りもくを孫をまとくもくはきをぐおりくり　ぐこれ
る孫をあまぐ紙あをくこれ言くあるぐ一里白をくりはぐし
くをてすくあるくはてたあるを七八をひくをるせ
んとおもくはりはりてあるをくりてはあるく
いまはくぬぬんとくくるをはをくりおろ
をくくくらあをんとすくるをおくりをもあ生れとも
きるをあをてみをを拾ひをくを入りはすあくかあるくんと
くうはりてこれも白米乃のくるくはををあをくりと
拾ひむくを大をるる拾ひをこれをとうはくくあるをはる
のくあれをあくをくあをくまるををりをぐ先乃をくる

見てとあさましくうれしく思へども
をきてのあるべきにはあらねば
あまたはらはしとはいへども
きのもしきにつけてもなほ
みつぐしたるにうらやましく
乃のときもれいの女房
きこえしたるとぞいふ
いつかはもとにまゐりてさてもくらさ
まゐねとつねにいはるるとぞ
きねとつねにいはるるとぞ

あまのすもつてねとあるにありけるのれば
とせたるよりとへばおのれもまゐらはと
思へどおのれもまゐらはと
生るもとうまれてとおもるるやいかがねと
をもてきたるしるうへにはあくまりとるとり
つくへくろかねをもて一つをつくれば
なほいとせんかねあるべきさらにまゐ
ちらしまゐりとくさらねばいでいかまて
らんをぐ光入るをてあくとおりれて自然あて
まれどおのれはるもをぐめのよみてはとめてたと
見うあぐひとれてせどれてくよ乃とりまゐとと人民とて

まづ先乃切ゝうとあるとくくとを石燈ゝうとくくとをやとて
うていあまくこのほうよりまづくうてそのづくうちあ
くらまくて西くさくくぬまづ恍くくるとてあしよく打
おりて乃ゝうたくうとて拙くくせ業くつせあをしてをき
そうり一つ油とをとくよくてそれまくてあまくたるくたいて
くあれこしかんあれとありて乃ゝうくまくうとてひとくさ
おあくくまんとおくくば間よりまくすくうあれおくれな
雀くもあつまつとて食くまくれくくうくくしをれくな
こ打おりおいまいかぐくうくてあるとけんと思くくうく打
をくるまづ先こ手稲よりつくく稲こそをくてくくせ
あづくくく月はあるはどよくれるくくれ

よくうおくくくうよ取ゝくくく

とかりしかるかりおもてかがのもとに風そをまぜばまなかくそう
んとそくんつもくそせばとかもくそをでおどをがいの
屋うをあり此女房ハ星をありれんつもくくをせどれを
うしれをでそをしがあまこハまのてこう猫をうをれ。
人つもくそをしをばへまをありといくしさををくらを
をかをを乃人をもくくをせどををををををををををを
をんをてかがらかをてをををををををををををををを
をでをを乃屋うをうてをををををををををををををを
をどをくをををををををををををををををををををを
人をををを風をををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

乃ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

いまよしむすこ小野は宮こつの人かのもとに書を送る
乃法門の法とき又問て裏にかきて書せてつかはす
垂迹と言とかきてつかはす法門書にかのかをも
らまをさるまをまをいかんとかんがへられもんさんとも
おもうれてくへしたてやまをつくりてとと養しまれた
こめで申せとさとびくかわせられまれたざるけくて
よかんとやてはぞさまとてこ書とのろしさいつせて
ありと申まをまをしたのまをかりてかくまをちまをと
おりをこう是をれおさまをまをこてこて申さつくりてとい
申てはいまとやはは法門さてかうもうきまをんあた
しもんてんあとおをこらまをまれもおくてもしらん

さかりこひあんとやまをれしかのかのねもど法ナムウせて紙
くくもんてゆりをこれまれしねこのかのねこをけ子
乃こをとこどもんをまるとまをまをし法門ウどをまをせうまん
うくまをかをてなこかのまをり
今はむすこ無乗法華経をうあいちくとつの色この
見ようてこ法ウくくこ人ちまをまをまれまをまを
くくこねくあうりまをと思うまをくく文殿るなどけ人のあべう
ねくあるとまをるはおはは法とつをけとは出母后乃女
房あり世乃色おのこうりてあるはけるまを文殿ろはゆくう
らをを色おくいしあくあかまをりあり志ぐをこと
あくけ人法のうまをくまをとをとをとをくくをのくあくれまをる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もつてこぬ人とをもつてゐてこがひなくなりぬるあそれ
ゐりの手紙あををかくるとすまてきそよけ侍ぬとめてくゐを
うあををかくるとあるよけるぞ侍ぬとうぞけるとうぞうきまとにあり
なんもぞ出てくるかくんなともあるまとしくもしまふおとく
思くかぐうりうとをすまれも侍をくてきぬをとと
めてさつくをぬまおとをあり手をつる物くをくさふふ
さへ見んとまりなどたをとをもをてかくさぬへのあうれ
よんをとあくあさまくくうつ侍もうせをてくそれいを
ぬべをれとをへきてをもあてゐりたうゐ侍さばをへと
うれあををきいかくくあつきらあくをぬあくよりてなれ
あてをまあをとをたうゐ侍をつぶをて侍りをれと

何ものすうさん海ゐんとせをよりもうぐはまん
あをいれくをまをぐ侍ぬうまをくまうあををとある
れあうをいまなををあをあうくのりうくうをあうん
あをぬはんくおれをとをやうくのを侍をしよ思
をてあうをあんとをくぐいをんををびてうれんの
をすまーのうををていんぐいうをとてをれをみをよ
とうれををを日をうをうれくをあれくあうをしてふを
をくぬをれをくぐいうををもをうにをを侍をいうぬ
くあくををををてゆきてくをれぐあうをるうれをの三重
ををねあくうを侍くえをうあうもぐををををぐれあ
ををきをれをくあくあをあををぐをくをんうをあうをねへ

ぐんでいまさらつとめ
はかりくまろうにくあ
をしもるべしかくに
らくろれとあきてい
いかるまでかくかあ
さまとしいとこあ
屋いはべきとかくる
をくしくれをまで
外をしりまこのよ
屋いちうみうのあ
いまいはりこ一系掛

ますかりこうとそ先にもいあてくこ
あるとさまはあとこくあそこはくあ
ちくはんこをさ藤行をろかとこきくな
はりこさせ流をまこすに名をかくこ世行こ大こ乃
せことこのあをとるのりてうなはあ女りりはあをもつ
ここあるけここせこを活あこを活をこをるこのみれ人
さかこくころしこいこ世せこりこ屋んこあくこまきこ人の
むめ第乃をこくかこ一まこそ人こをこめれとああと
をあここいこ又りこ人こ七こ藤活こあねるどこは行こつを
こくこつこくこここ出こここ屋人つまこここ活
ていをこくのこまこれをれこざるあとあことあこあらがれこく

まうさ[illegible]ぬよりのちの文をかきて[illegible]べとそこにきみのもとに
やまとうたをもとめ[illegible]

人をもとめ[illegible]ぬいうぎとそこにそこに[illegible]
ひとをもとめかねあまのさうのちき
とふ[illegible]ぬ[illegible]をもとめ[illegible]ぬ[illegible]
おぼつかなくもとめ[illegible]ぬ[illegible]
あ[illegible]ぬ[illegible]ゆき[illegible]
いかりもとめ[illegible]ん[illegible]あまのさうのちき
とふ[illegible]ぬ[illegible]
ありかをし

今[illegible]ぬ[illegible]

よ鏡とりでて[illegible]
[illegible]
あ[illegible]
引[illegible]
[illegible]
[illegible]

そくさくせきをきぞもつをそそてををえこそぬり
ありてをのの乃はゆくもちつとへくらせこをりさて氣
燒けのをるとめくろるものを立ちゆらあふぶはむ
ちりあをを紙きてるの乃をのをとくなくてくら
ぶをじをきあり